

長野県における2020/21シーズンのインフルエンザの流行状況及びウイルス検索結果について

長野県健康福祉部感染症対策課
 長野県環境保全研究所感染症部
 長野市保健所環境衛生試験所

1 インフルエンザの流行状況

(1) 長野県感染症発生動向調査事業

長野県感染症発生動向調査により、あらかじめ指定した県内87医療機関（定点）から管轄保健所を通じてインフルエンザと診断された患者数を一週間単位で報告いただいている。今シーズン（2020/21シーズン）における週別定点当たりインフルエンザ患者数を図1に示した。

定点当たりの患者数は、例年流行のピークとなる2020年第53週（12月28日～）から2021年第8週（～2月28日）間で、0.01人～0.02人で推移し、それ以外の週についても0.01人を超えることはなく、今シーズンは、流行開始の目安である1人を超えずに終息した。ピークが流行入りの基準（定点当たり1人）に達しなかったのは、調査が始まった平成11年以来初であった。

2020年第36週（8月31日～）から2021年第22週（～6月6日）までの定点当たり累積患者数は0.12人で、昨シーズン同時期（221.67人）の0.05%、過去5年平均値（350.61人）の0.03%であり、患者数が極端に少ないシーズンであった。

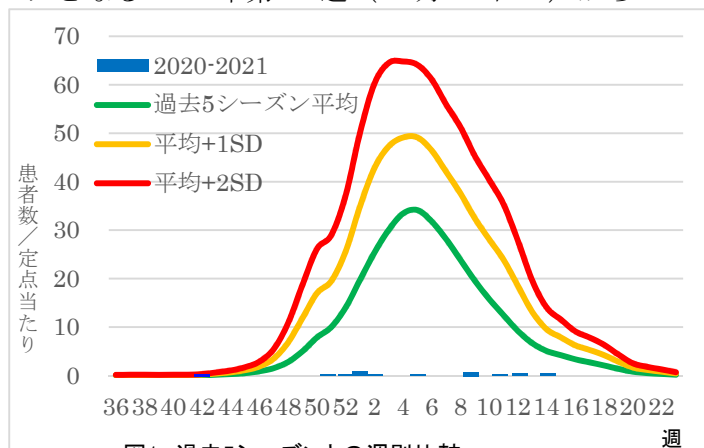


図1 過去5シーズンとの週別比較

*過去5シーズンの平均: 前週、当該週、後週の合計の平均
 過去5年の週と比較し、1SDラインを超える場合は多い、2SDラインを超える場合はかなり多いことを示す

(2) 集団かぜ患者発生状況

今シーズンは、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖はなかった。週ごとの学級閉鎖施設数及び患者数を図2に示した。

保健所では管内のインフルエンザ様疾患の集団発生が報告され始めた頃を目安に、今シーズンの主流インフルエンザウイルスを把握するため、施設側の協力を得て検体を採取している。今シーズンは、インフルエンザ様疾患の集団発生がなかったため、検体採取は行われていない。

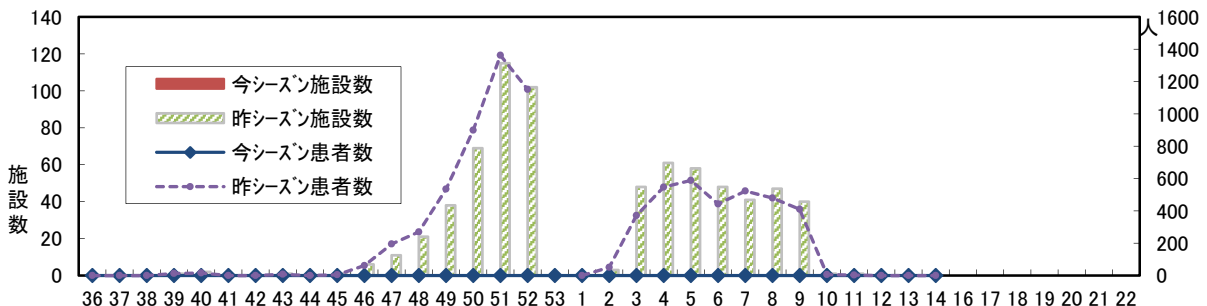


図2 保育園、学校等の休園、休校等におけるインフルエンザ様疾患発生状況(長野県)
 ※2020-2021シーズンは、学級閉鎖施設はなく、患者数が少ないためグラフ上に表示されていない

(3) 入院サーベイランスについて

県内の11基幹定点から1人の届出があり、昨シーズン(200人)比0.5%と、過去5シーズンで最も少ない状況であった。

年齢階級別の週別推移を図3、過去5シーズン別の年齢階級別届出数を図4に示した。今シーズンは第4週(1月25日～1月31日)に1人の報告があったのみであり、今シーズンの入院患者数は極めて少ない状況であった。

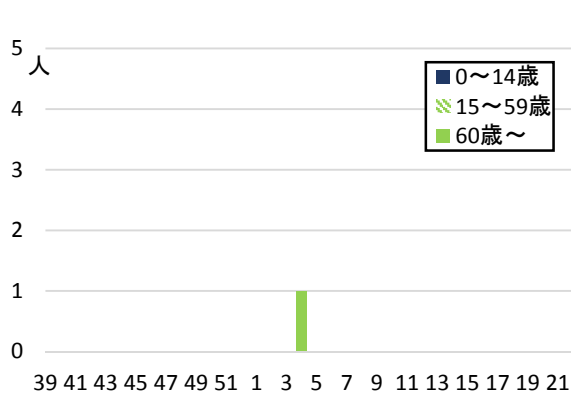


図3 入院サーベイランス年齢階級別・週別推移

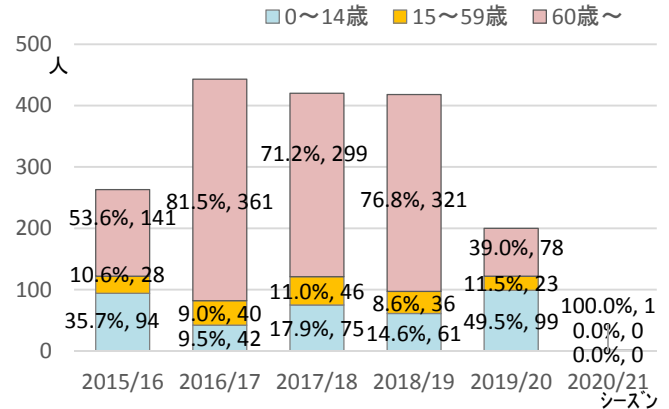


図4 過去5シーズン年齢階級別届出数

2 インフルエンザウイルス検出状況

(1) 感染症発生動向調査事業等

長野県環境保全研究所および長野市保健所環境衛生試験所(以下、「環保研等」という。)におけるインフルエンザウイルス検出状況を表1、図5に示した。

2020年8月31日(第36週)～2021年6月27日(第25週)の期間に、感染症発生動向調査事業の病原体定点(医療機関)等で採取され、環保研等に搬入されたインフルエンザ患者及びインフルエンザ様疾患の検体は1検体であった。この検体について、分離培養または遺伝子検査によってインフルエンザウイルスの検出を試みたが、ウイルスは検出されなかった。

表1 ウイルス検索結果

亜型	検体数
AH1pdm09亜型	0
AH3亜型	0
B型(山形系統)	0
B型(ビクトリア系統)	0
不検出	1
合計	1

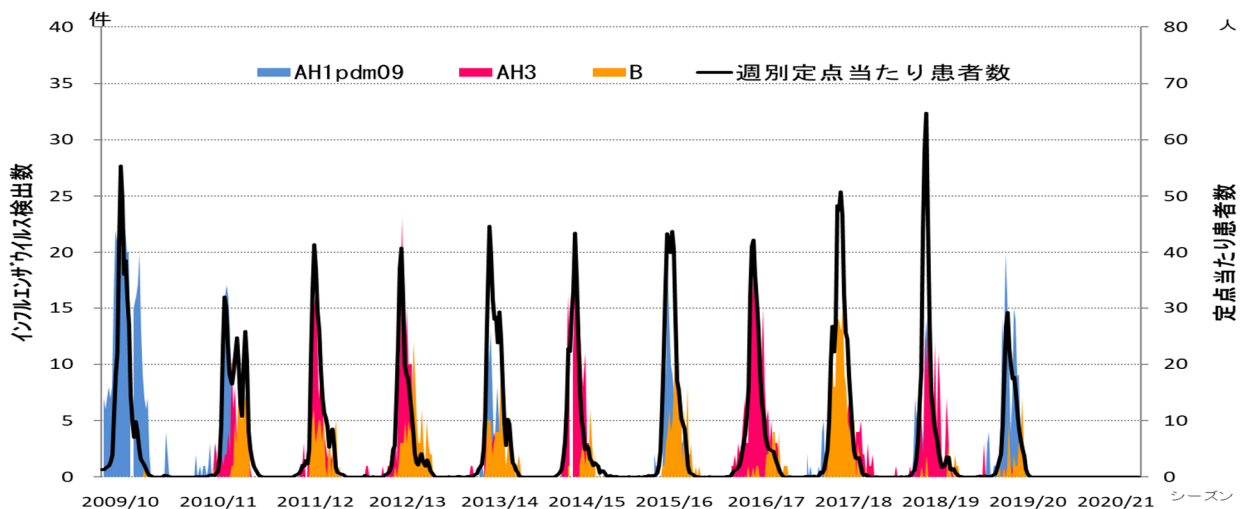


図5 インフルエンザ型・亜型別検出状況及び定点あたり患者数(2009-2021)

※2020-2021シーズンは、患者数が少ないためグラフ上に表示されていない

(2) 抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスについて

国立感染症研究所（以下「感染研」という。）では、全国の地方衛生研究所と共同で、ノイラミニダーゼ阻害薬のオセルタミビル（商品名タミフル）、ザナミビル（商品名リレンザ）、ペラミビル（商品名ラピアクタ）およびラニナミビル（商品名イナビル）と、キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬のバロキサビルマルボキシル（商品名ゾフルーザ）に対する薬剤耐性株サーベイランス¹⁾を実施している。

環保研等もこのサーベイランスに参加しているが、今シーズンはインフルエンザウイルスが検出されなかったため、送付したウイルス株はなかった。

なお、全国では 2021 年 6 月 21 日現在、ノイラミニダーゼ阻害薬に対する薬剤感受性試験を AH1pdm09 亜型 2 株、AH3 亜型 2 株解析したが、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対する耐性株は検出されなかった。また、B 型は全国で検出されたウイルス株がなかったため解析されていない。

キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤バロキサビルマルボキシル（商品名ゾフルーザ）についても AH1pdm09 亜型 2 株、AH3 亜型 2 株について解析が行われたが、いずれも検出されなかった。¹⁾

3 まとめ

今シーズンは、流行開始の目安である 1 人を超えることなく終息し、患者数が極端に少ないシーズンであった。

引用文献

- 1) 国立感染症研究所ホームページ，抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>